

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1) 目的や意図に応じて、情報を整理し、根拠を明確にしながら自分の考えを記述・説明する力 (2) 学習の過程を振り返り、自分の理解状況に合わせて、次の学習方法を自ら選択・調整する力 ①「問い」を大切にしたい主体的な学び ②アウトプットに係る指導の充実	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1) 全教科において、「なぜそう考えたか(根拠)」を接続詞(「なぜなら」「つまり」等)を用いて説明する場面を設定する。【毎時間の終末・単元末】 (2) 単元末に「何が分か、何が課題か」を明確にし、次時に「どの練習問題に取り組むか」を児童自身が選択する時間を設定する。【各単元末】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態		

①学校全体での取組
②単元テスト・定期テスト等の分析・活用
③中間評価を経ての取組
④調査結果を活用した授業

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	B
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	・国語では「知識及び技能」の側面、特に言葉の特徴や使い方に関する事項については、定着が見られる。一方で、「書くこと」や「読むこと」において、複数の情報を関連付けたり、根拠となる理由を明確に示したりしながら、自分の考えを論理的に記述する問題に課題がある。接続語や指示語を適切に使い、文章の構成を整えて書く力が十分とは言えない状況がある。 ・自らの学習を調整することができる資質・能力と関連する児童質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、肯定的な回答が7割以上であった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・わからない問題であっても諦めずに取り組もうとする意欲があり、基礎的な知識や技能は着実に身に付いている。また、自分の学習状況を客観的に捉えようとする「学びを調整する力」の土壌が育っている。 ・「知っている・わかる」段階から、「根拠を持って説明する・表現する」段階への移行に壁がある。自分の考えを他者に伝える際、どの情報を根拠に、どのような筋道で結論に至ったのかを整理して記述することに苦手意識、あるいは不慣れな様子が見られる。 ・意欲の高さという強みを活かしつつ、授業の中で「なぜそう考えたのか」を言語化する場面を意図的に設定し、論理的な構成力を高める指導を強化していく必要がある。 ・個別の情報の読み取りには意欲的だが、複数の情報を比較・関連付けて共通点や因果関係を見出すことに課題がある。情報のつながりを可視化し、多角的に考察する力の育成が必要である。	

教育研究所